

中国における買い物用ビニール袋の有料化について

上海駐在員事務所

秘書 王 一

中国では毎日 30 億枚のビニール袋が使用されていると言われています。そして、都市部では大量消費の後、捨てられたビニール袋が街中に散らかる「白色汚染」が、大きな社会問題となっています。日々何気なく使用されている 1 枚 1 枚のビニール袋が、都市環境の汚染や深刻な影響を及ぼしているのです。

そこで、中国国務院は 2007 年 12 月 31 日に「ビニール袋の生産や販売を制限する通達」を公布しました。2008 年 6 月 1 日より全国のスーパーマーケットやデパート、市場等、商品の小売販売を行っているすべての施設でビニール袋が有料化され、消費者への無料提供は、一切禁止されました。

上海市内のスーパーマーケットやコンビニエンスストアでは、商品購入の都度、レジカウンターでビニール袋の利用の有無を確認され、ビニール袋が必要な際は 0.2~0.4 人民元程度（約 3~6 円）で購入しなければなりません。



・ビニール袋の利用が激減したスーパーマーケット

「ビニール袋の生産や販売を制限する通達」の施行前には、一部の大手スーパーマーケットで、環境保護を意識したリサイクル袋を消費者に提供するキャンペーンが行われていました。また、上海市内では昔ながらの竹や柳で作られた買い物かごが復活する兆しがあり、若者でも使える携帯に便利でおしゃれなデザインの布製買い物袋も見受けられるようになりました。

しかし、食料品市場で肉や魚介類、惣菜等を購入する際には、汚れや汁などの漏れが心配なため、ビニール袋が必要であると考えの人が大勢います。また、中国では共働き家庭が多いため、夫婦のどちらかが退社後に買い物をすることが一般的です。毎朝、買い物専用袋を用意して出勤することが当たり前の習慣となるには、まだまだ時間がかかると思います。

中国リサイクル専門委員会では、ビニール袋の有料化により全国のビニール袋の使用量は 3 分の 1 程度になると予測しています。今回のビニール袋の有料化のような政府による強制措置の実施を契機に、消費者の環境意識が向上し、ゴミの分別や資源リサイクルシステムが機能してくれば、深刻な状況にある中国の都市環境問題も改善に向かうことでしょう。

以上